

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	アメリカ ワシントン州 シアトル
研修先	兵庫県ワシントン州事務所
プログラム実習期間	2019年8月26日～2019年9月20日
学部/研究科・学年	国際人間科学部 2年

インターンシップ就業実習 報告書

8月26日から9月6日までの2週間、兵庫県海外事務所（シアトル）で午前10時から午後4時までを就業時間とし、途中1時間を昼食休憩として過ごしました。私は、後半の実習でお世話になった、バラード高校の担当の先生からの要請で、午前中に学校へ行く日もありました。

事務所での就業中は、主に、ひょうご神戸フェア（日系スーパーマーケットで行われる、日本のメーカーが製品を持ち寄り、現地の方に紹介するイベント）に出展する企業の紹介ページ（ホームページおよびFacebook）の作製、Japan Weekでの兵庫の紹介パネルの作製、アメリカに活動拠点を広げようとしているイラストレーターの方のマーケティングプランに取り組みました。私が特に力を入れて取り組んだのは、ひょうご神戸フェアの宣伝活動でした。ホームページやFacebookへの投稿はすべて日本語英語の両方を作製しました。出展企業や商品の魅力をいかにうまく伝えられるか、またそれをいかにうまく英語で表現するか、試行錯誤を繰り返しました。特に、英文に関しては、ネイティブの職員の方に添削して頂き、実際に使われている表現など、生きた英語を学ぶこともできました。事務所内は、ほとんど日本語でやりとりをしていたため、コミュニケーションに困ることはありませんでした。もう一人の派遣生や所内の方々と時には雑談も交えながら、居心地よく業務をこなすことができました。

9月9日から20日までの2週間は、バラード高校へ毎日15分ほど歩いて登校し、午前8時15分頃から、16時頃まで学校で過ごしました。時間割に合わせて、昼食をとったり、休憩をしたりしました。基本的には、授業の準備および片付け、授業中に生徒の質問に答えるなど、先生のお手伝いをさせて頂きました。先生のご厚意で、生徒が少しでも日本の文化に直接触れられるように、と私が茶道を披露する日を設けてくださったり、カラオケをする時間を与えてくださったり、と生徒と交流できる場を用意して頂きました。生徒達の前に立ち、作法の説明や曲の紹介を簡単に日本語でする場を与えられましたが、どこまでが彼らの理解できる範囲の日本語であるのか、という判断をしつつ、話をしていくことが大変難しく感じました。バラード高校の日本語クラスには、何人かの生徒がTeaching Assistantをしていたので、日本語を積極的に学ぶ彼らとともに過ごすことで、日本の強みや、誇るべきものについて、改めて感じ、考える良い機会となりました。日本の一般的な高校とは違い、生徒がそれぞれのレベルに応じて、クラスを選択しているため、どのクラスにも個性があり、毎時間、新しい発見がありました。1対1で関わることでできた生徒もいて、彼らが私と話をすることを楽しんでいる様子や、精一杯学習に取り組む姿を直に感じられたことが私自身の励みとなりました。最終

日には、上級生向けのクラスでお別れ会を開いて頂き、みんなが一生懸命書いてくれたメッセージカードを頂き、2週間という短い期間ではありましたが、この高校で、この生徒達とともに過ごすことができ、本当に良かったと心から思いました。

実習全体を通して、海外での就業体験という大変貴重な経験を積ませて頂いたことで技術面や語学力だけでなく、考え方や人との関わりなど多くのことを学ぶことができました。

感想および意見

シアトルで過ごした1ヶ月は周囲の人に恵まれて、この研修に行かなければできなかったことをたくさん体験し、大変充実した生活を送ることができました。私は昨年ワシントン大学の夏の英語研修に参加したので、シアトルの有名な観光地は大概訪れていました。今年は観光をすると言うよりも、現地人に近い生活をしたいと考えていました。

バラード高校の担当の先生が大変親切にしてくださり、教会での奉仕活動（ホームレスの方に配るサンドイッチ作り）に連れて行ってくださったり、夏休み期間中にはTAや生徒と会うお茶の場に呼んでくださったりしたため、シアトルに住む人と実際に外で関わる機会がありました。彼らの気心知れた会話に入ることは、なかなか難しいことでしたが、その輪のなかで、スピード感のある、生き生きとした英語に触れることができ、また、彼らの生活の様子をうかがえる大変有意義な時間を過ごすことができました。

私は1ヶ月間、ホームステイをしていました。ホストファミリーは、私のことをしっかりと気にかけてくださりました。夕食時に家族の話や、今までの経験、シアトルでの人々の生活や、教育についてなど、たくさん話をしました。ホストシスターは、週末に私を現代的な教会に連れて行ってくださりました。私の持っている教会に対するイメージとの違いから、軽いカルチャーショックを受けましたが、彼女の友達と話をしたり、昼食を食べに行ったりと楽しい時間を過ごすことができました。

バラード高校でも、私に積極的に関わってくれる生徒がいたことで、授業以外の楽しみもありました。私の水泳が好きという自己紹介を聞いて、水泳部の様子を見に来るように声をかけてくれた生徒や、授業でわからないところや、日本語の微妙なニュアンスの違いを質問してくる生徒もいました。日本語クラスの生徒達は、様々な形で日本に興味を持っていることから、実際に日本人である私が彼らのコミュニティーに入っていたことが、少しでも彼らの刺激になっていたら嬉しく思います。

1ヶ月（それぞれの職場で2週間ずつ）という短い期間で成し得る仕事や課題は多くはありません。このプログラムは、「就業経験」に重きを置くというよりも、その中でどれだけ自分にできることを探すか、人とのつながりをどう生かせるか、職場の雰囲気や他国の文化にどれだけ柔軟に対応できるか、というように、母国をはなれた不安の中でも気持ちを切り替えて、いかに充実した生活を送れるか、大いに自分を試す機会になると思います。

私は今回の滞在で、新たな出会いがたくさんあり、連絡を取り合う友達もできました。実習期間中は英語でのコミュニケーション能力の向上をあまり重視していなかったのですが、今後、彼らとやりとりを続けていく中で、語学力を伸ばせば、と考えています。

このような貴重な機会を与え、有意義な生活を送らせてくださった、神戸大学の関係者の

皆様、兵庫県海外事務所の皆様、バラード高校の先生方、生徒達、ホストファミリーをはじめとする、すべての方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

